

死ぬ気で
飲め

むせてんじゃねえよ











問答無用！



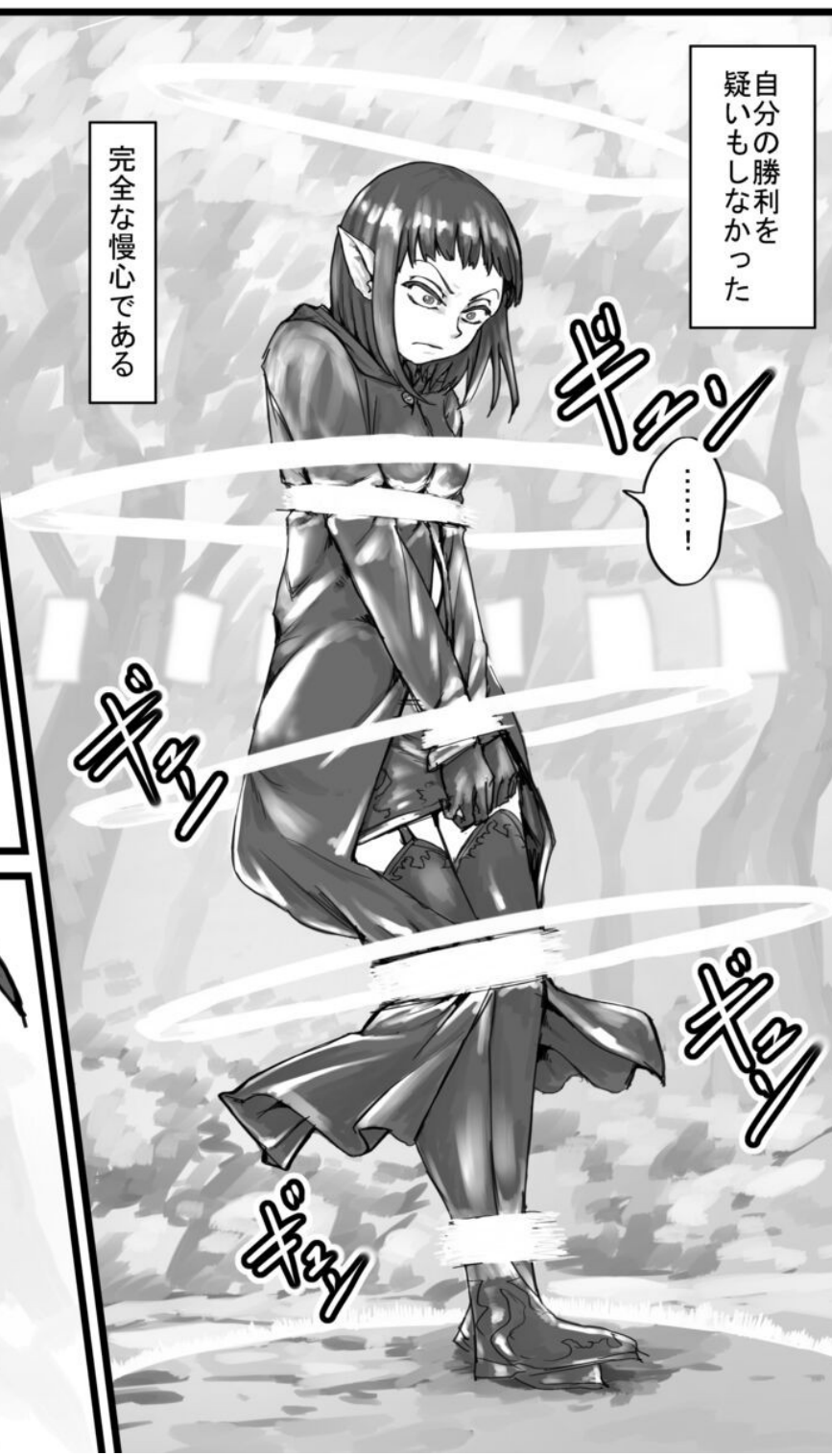
「緊縛の光輪」

この時の私は
若さのせいかな…



あーあ

自分の勝利を
疑いもしなかった



完全な慢心である



もう引けねえぞ…

魔族とは

太古の昔
血塗られた系統実験に
よって人工的に作られた
種族…

エルフに
匹敵する
魔力と…

私の
勾留魔法が
一瞬で…!?

な…

私の剣の
ほうが疾い！

だが…

吸血鬼と並ぶ
身体能力を併せ持つ

ビキキ

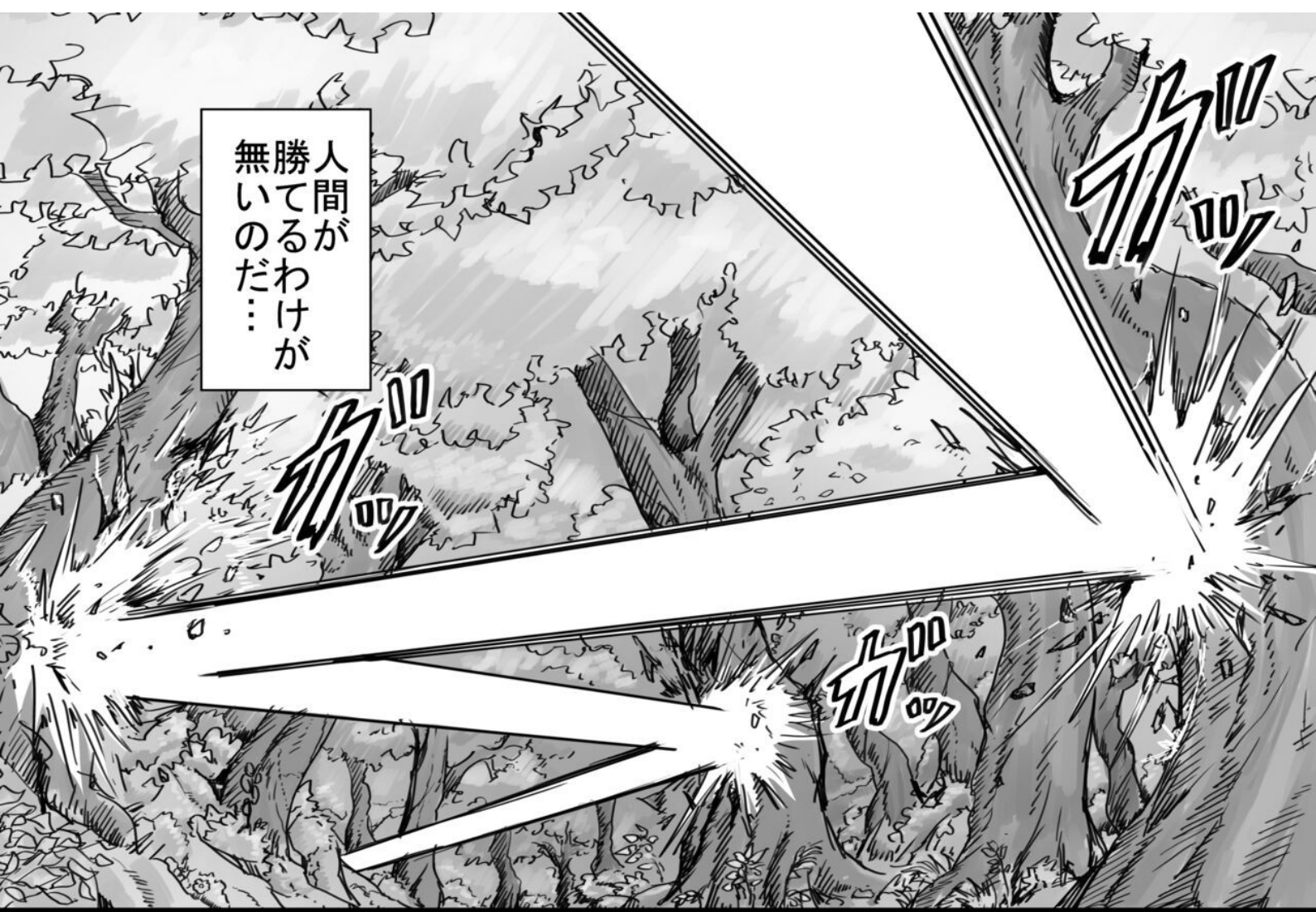
その戦闘力は

素手で

私の
斬撃を
止めただと

竜にも匹敵する





人間が
勝てるわけ
がないのだ…



っ、強すぎる！

おー結構強く
殴ったんだけどなー
強化魔法か…
マジックアイテムか…
どちらにせよ
大したものだな

スタ
スタ

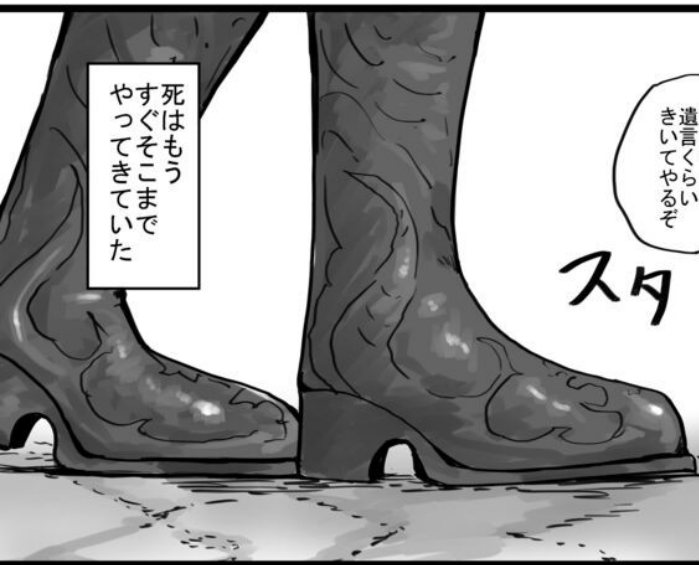


まあ
お前も次で死ぬけどな



自動治癒魔法が
間に合わない

普通の奴なら
死んでるよ



死はもう
すぐそこまで
やってきていた

喋れるなら
遺言くらいい
きいてやるぞ

スタ



駄目だ…
傷が癒えたとしても
敵うわけがない



私は生き残るため
一縷の望みを託して
ある行動に賭けた



今…
何ができる…

考えろ…

絶対服従犬のマネ！

きやうん
きやうん

許して
ください

私の負けでふー

私が愚かでした

完全なる降参である

可愛らしい
無邪気な犬を
踏み潰せる者は
： 踏み潰せる者はいない

相手の良心に
訴えかける
心理作戦だった

御慈悲をー

この無知で
非力な人間風情に
どうか寛大な処置を

きやう
きやう

お願いしますー
魔族様

わー
ゴミを見るような目で
こちらを睨んでいるー

ギリ





そう言うのと
彼女は徐に
下着を脱ぎ始めた

ヌギ

スル

え…!

な、何を

教えてやろうか



シヨンベンだよ

ずっと我慢してたから
茂みで済ませようと
おもってたんだ

それをてめえ
邪魔しやがって…

クパ

私は生き残るために
小便を飲もうとした

ブボ

ジュボジュボ

このカスが！

てめえが魔法で締め付けた
せいでちよつと
パンツに染みちまった
だろうが！

どうだ？
私のシヨンベンの
味はよー

濃度の濃い
小便が口の中
でエールの様
に泡立ち
得も言えぬ
気持ち悪さ
を醸し出して
いる

よく飲めるな

あー我ながら
今日のシヨンベ
んくっせえわ…

ジュボボボ

何より臭いがキツ過ぎる

ド
ボ
ボ
ボ
ボ

エグミが
ヤバい

しょっぱ
不味い



女の小便は
凄まじい量で
衰えなかつた

こぼれまくってんぞ！

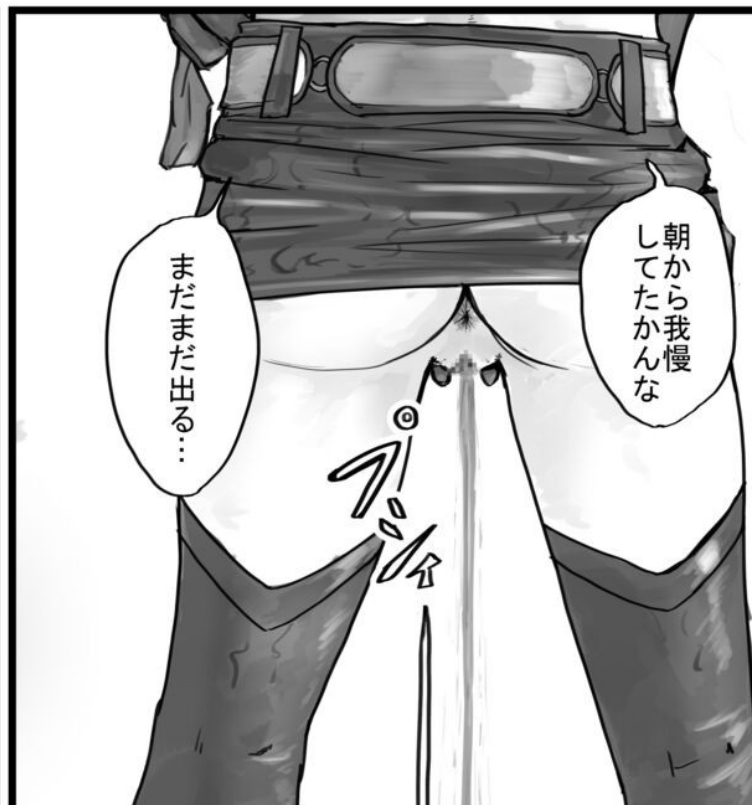
って全然飲めて
ねえじゃねえか！

ちゃんと
飲めよ



鼻にも容赦なく注ぎ込まれ
窒息しそうだった

あまりの不味さと量に
飲み干した小便が
逆流しそうになる

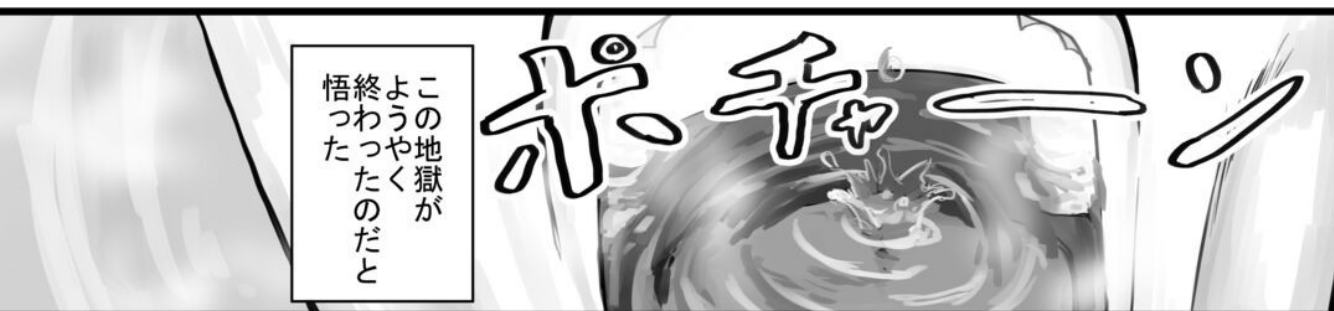


朝から我慢
してたかな

まだまだ出る...



一分を優に過ぎた
ところだ、ようやく
勢いも弱まってきた



この地獄が
ようやく
終わったのだと
悟った

口の中の
尿溜まりに
雫が落ちる
感覚で



おら
口の中のシヨンベン
飲み下せよ

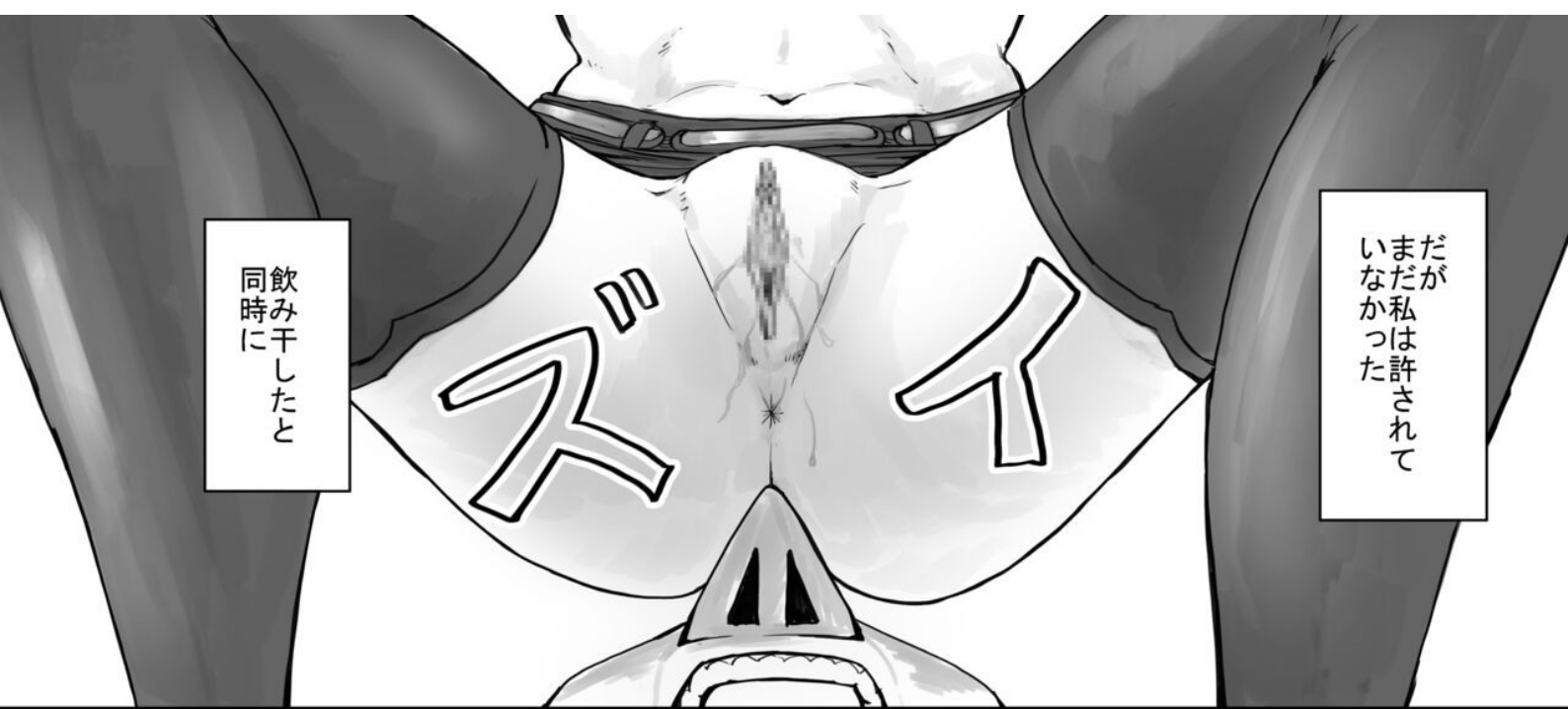


ふー出た出た



吐き気を抑えて
根性で飲み干す

これで彼女が
満足してくれた
と思っていた



だが
まだ私は許されて
いなかった

飲み干したと
同時に



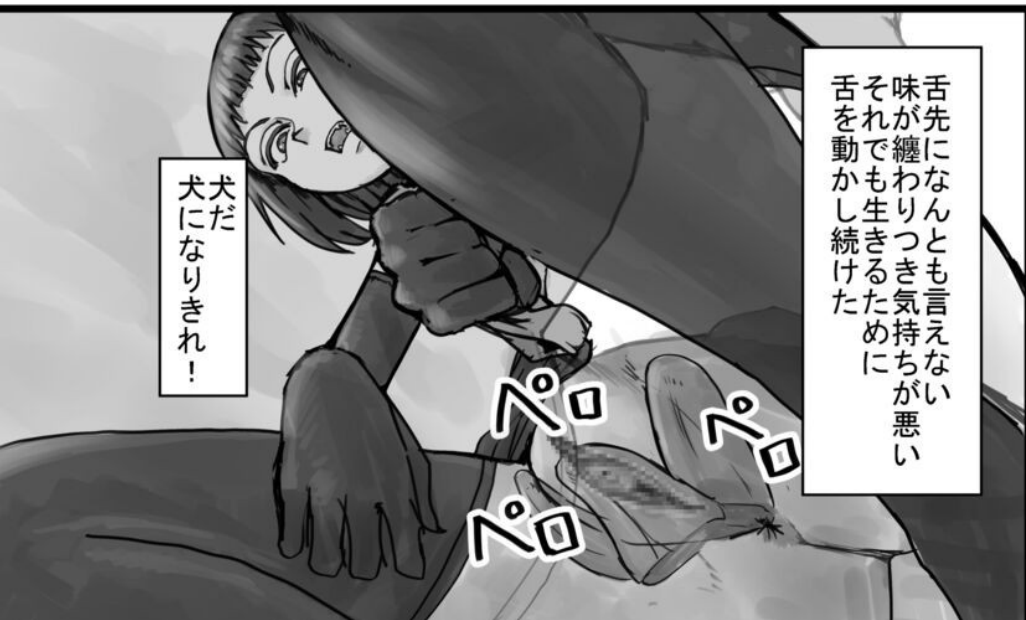
次なる
要求

舌使って
しろコ綺麗に



彼女の下半身が
私の顔に
かかった

みっど...



犬だ
犬になりきれ!

舌先になんとも言えない
味が纏わりつき気持ち悪い
それでも生きるために
舌を動かし続けた



必死で舐めた

クニニはしない主義の
私が女の陰部を貪る
ように舌で奉仕した

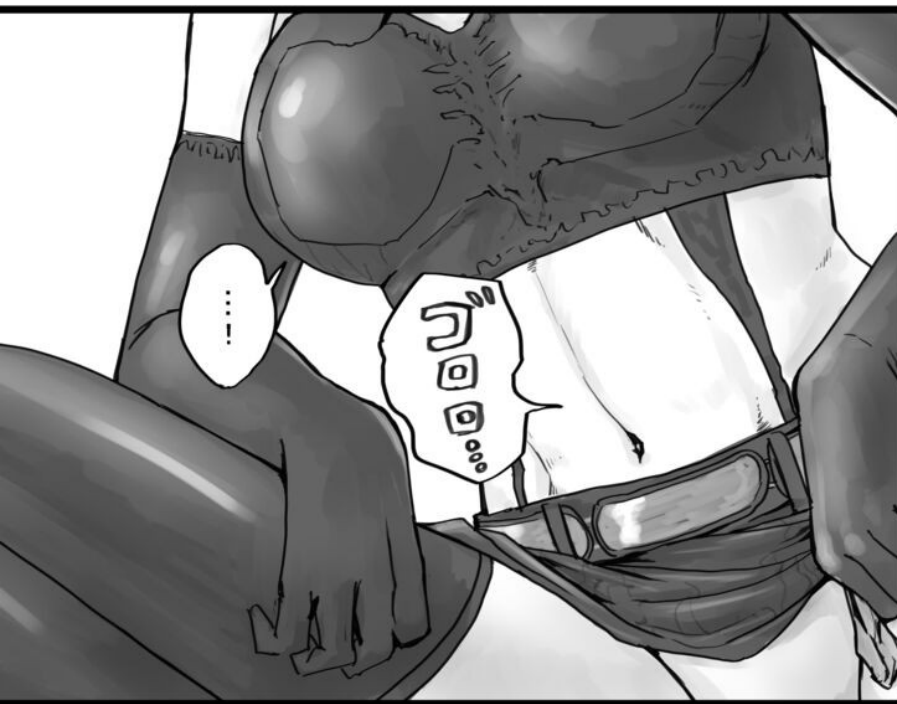


なかなか
いい舐めっ
ぶりだな
犬みてえだ



彼女の尻肉に鼻を塞がれ
上手く息ができないのも
辛かった

もう勘弁してくれ...



グッ
グッ
グッ

...



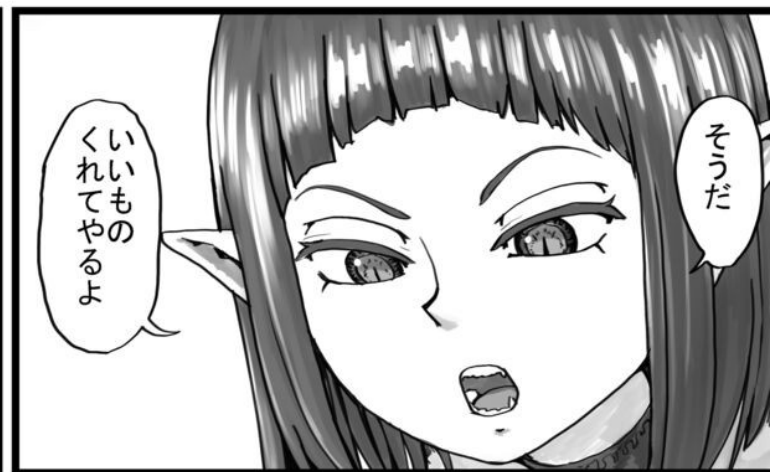
嫌な予感がした

気張っている

んん...

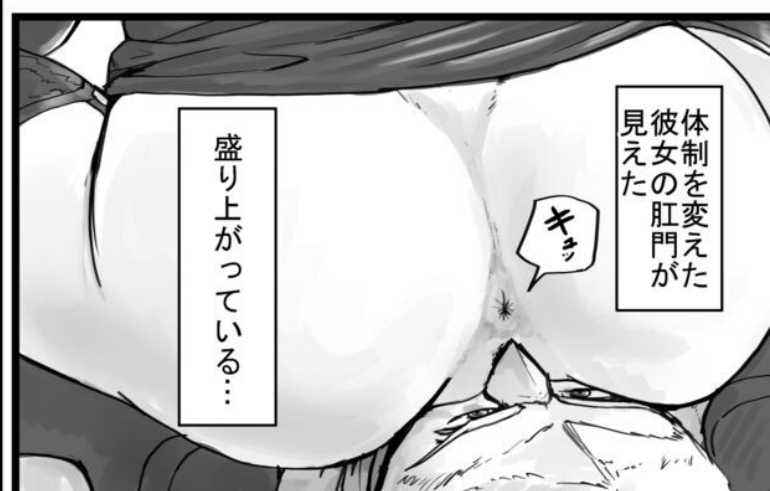
グッ

んん...



そっだ

いいもの
くれてやるよ



体制を変えた
彼女の肛門が
見えた

キッ

盛り上がっている...



しかも一発ではない

その後も
途切れることなく
尻の穴からガスが
放たれ続けた



それでも
彼女は容赦なく
腸内のガスを
すべて絞り出した

私は半分意識が
飛んでいたと思う

はー

便秘気味で
しんどかったわ

プス〜

うひょい
こりやいな

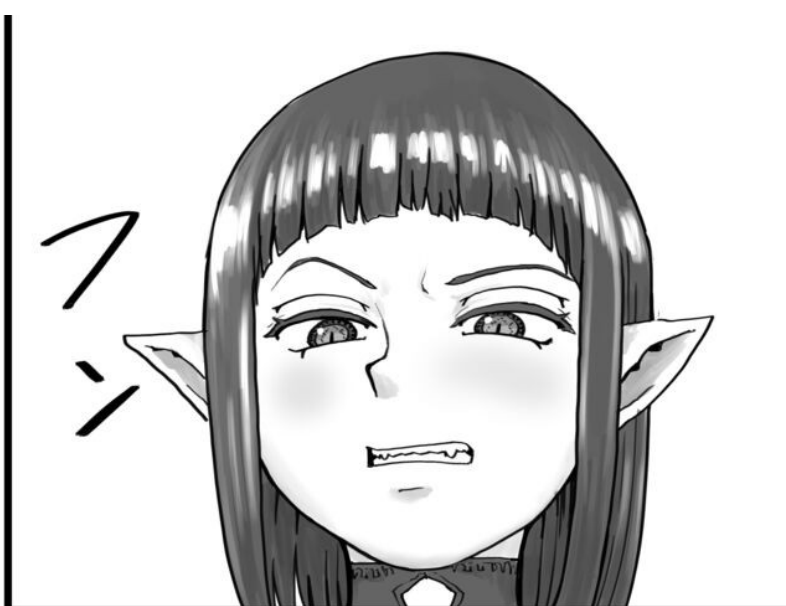
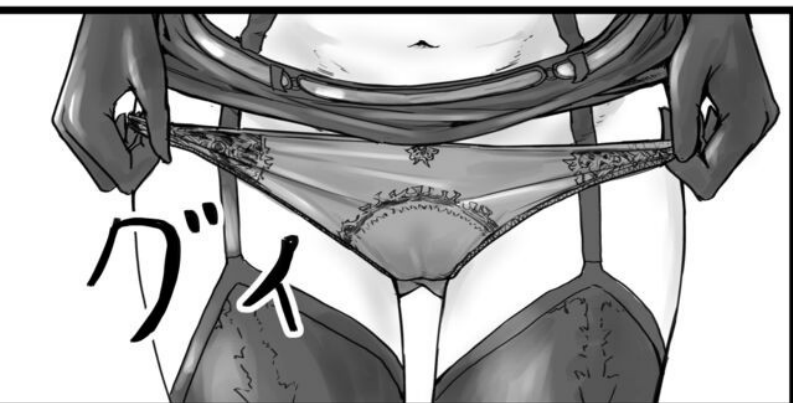
くっち...

流石にうんこは
勘弁してやるよ

って
何気絶してんだ!

おい!

ググ





そういうと
彼女は
私のも
去って
いたら

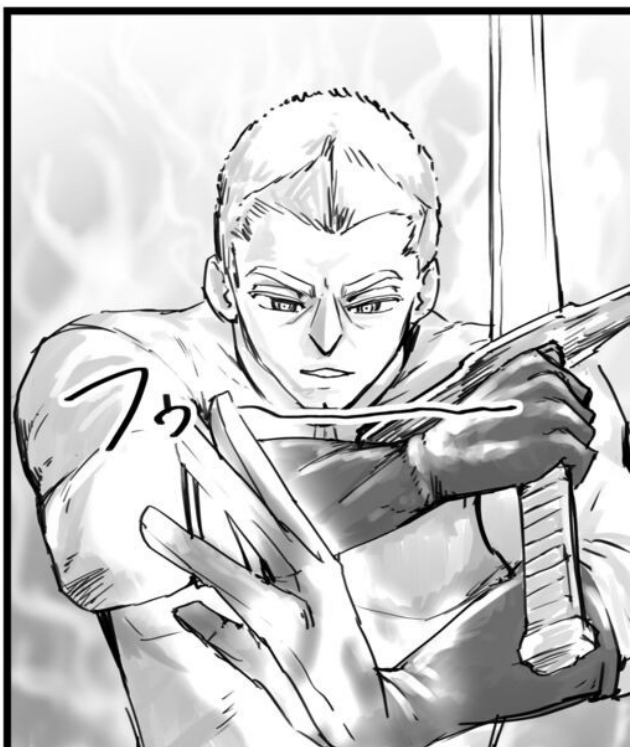
たく：
外套消し
飛んじ
まった
よ...

こうして私は
九死に一生を得たのだった



それから
月日は
流れ
私は
騎士を
辞めた

今は
籠も
つて
日々
鍛錬
を行
って
いる



はじめは
屈辱を晴らすためだった

だが月日が経つに連れ
自分が本当にしたいのは
彼女への復讐でないことに
気がついた

ズズズ

あの時の
辛く苦しく
屈辱的な仕打ち

はじめは怒りが
こみ上げてきたが
今ではあの憐れみと
悔い満ちた目を
思い出すたびに
別々の感情が
沸き起こってくる

たまらなく
彼女に会いたい…

無謀にも私は
再び魔族に勝負を
挑むため
旅に出ようと
考えている

会えるだろうか

どこに
いるのか
わからぬ
名も知らぬ
あの魔族の女を

ギョギョ

フゥ…